

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第2部課程第190期）

北海道幕別町 宇野 和哉

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1 はじめに

私は、令和2年10月26日から基本法制研修B第5期、同11月20日から第2部課程第190期の研修を受講させていただいた。新型コロナウイルス感染症の収束が見えず、研修が予定通り実施されるかという不安の中でスタートしたため、全体像がなかなか見通せない中での自治大入りとなった。

地元を離れ、家族とも離れ、そして職場の仕事を上司や同僚、後輩へと託して研修を受けさせてもらえることに感謝の気持ちが大きく期待も膨らんだが、同時に寮生活や全国から集まる研修生と上手くやっていけるかどうか、3ヶ月という長期間、健康面で無事に過ごせるかななどの不安もあった。

研修が始まると、当初の不安の大きさよりも、濃密な講義の数々、初日からまるで何ヶ月も一緒にいたかのような洗心寮6階フロアの仲間との交流の楽しさが日増しに大きくなり、研修期間も半分を過ぎる頃には、仲間との日々が終わってしまうことの寂しさが増すばかりであった。

2 基本法制研修B第5期

改めて、地方自治体で仕事をする公務員として知っておくべき基本的な法律関係や手続き関係の知識を学ぶ場ではあったが、恥ずかしながらはっきりと意識して業務に当たっていたか自信のない事項もあり、確認ができたことは財産となった。また、目の前にある直接の業務に関わる法律関係以外を確認することの大切さを再認識できた。

仲村部長教授がおっしゃった「今ここで全ての知識を習得して活かせなくても、派遣元に帰り、研修の内容を思い返したり資料を見返したりしていく間に知識として習得して欲しい」というお言葉を真摯に受け止め、研鑽していこうと思う。

3 第2部課程第190期

基本法制研修B第5期から1週間後、第2部課程の研修が始まった。寮の6階フロアメンバーも8名の新たな研修生を迎え、19名となり、より交流も活発になった。

基本的な知識を学ぶ基本法制研修と異なり、第2部課程ではより現場で役立つ実践的な知識として必要な講義や、政策立案・事例演習など、全国各地の研修生がそれぞれのグループに分かれて一つのテーマについて議論し、政策を立案・発表するといった研修が中心となった。

カリキュラムとして組まれた講義は、知識や経験が豊富な講師の方々のおかげで、非常に有意義な時間であった。受講した講義の中で私が個人的に印象に残った講義を3つあげるとすると、一つは東北大学の堀切川一男教授による「地域経済の活性化と産業政策」である。何より講師の講義を進めるテンポとユニークなトークが研修生を210分惹きつけて離さず、また地域でどんなことをすれば活性化につながるか、豊富な具体例ですぐにでも何かできることはないか、と考える良い機会になった。二つ目は名古屋大学の加藤博和教授による「地域を持続可能とする公共交通維持・確保策」である。この講座もパワーポイントの具体的な資料により研修生がイメージしやすい講座の展

開であったことと、公共交通を担当していない研修生が、地域持続のためにどうして公共交通が必要かを認識できるような素晴らしい講座であった。三つ目は株式会社ワークヴィジョンズの西村浩代表取締役による「市民が動き、行政が支える～これからのまちづくり論」である。具体的な事例が多数あったこともひとつだが、何よりまちづくりに対する講師の熱意・熱量を感じられる講義で、地元で何ができるだろうか、というイメージが大きく膨らむ講座であった。

その他、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、首長講演がZOOMによるオンラインで行われたが、非常にスムーズな機器類の操作のおかげで、対面講義と比較しても遜色なく、池田都城市長のお話を集中して聞くことができた。また、講義を受けて興味がわき、実際に講師の著書を個人的に購入したものもある。慶應義塾大学の駒村康平教授の「社会のしんがり」である。とても読み応えがあった。

第2部課程研修の中で44時限という多くの時間を班員とともにした政策立案演習はこの研修の大きな柱の一つであり、全国各地の6名の仲間とともに、一つのテーマについてしっかりと議論を交わし、政策を作り上げた。私の5班は北海道、埼玉県、静岡県、兵庫県、宮崎県、全国市議会議長会の研修生で、経験や人柄という面で非常にバランスの取れた班であった。リーダーを担わせていただいたが、それぞれが責任を持って業務を分担しながら、当初の目標としていた「演習として与えられた時間の中でしっかりとした報告書を作り上げよう」ということも達成できた。年が明け、新型コロナウイルスの関係で休講となり、自室待機となった期間も、班員グループのビデオトークで朝と夕方にその日の進め方や、進捗を語り合うことで意思の統一や結束力もより高められた。外部講師の上田紘士先生と常

にメール等で情報を交換させていただいた。非常に温かみのある親身で適切なアドバイスをいただき、発表会は中止となったが、報告書を無事に作り上げることができた達成感は大きく、全員で喜びを分かち合えた。

研修生は業務経験も派遣元の環境もそれぞれ違う中で知識や経験を積み重ねており、お互いに相手を尊重し、その中で意見をしっかりとぶつけ合って一つのものを作り上げていく貴重な経験を、ぜひこの後の研修生のみなさんも体験して欲しい。

4 おわりに

今回の研修生活は、良くも悪くも新型コロナウイルスの影響を大きく受けた研修ではあったが、自治大学校の関係者のみなさんや講師の方々、そして派遣元の大きな支援もあり、無事に研修生全員が卒業することができた。イレギュラーな時期だったからこそその経験もできた半面、勉強とともに大切な目的でもある研修生同士の交流が、特に研修後半はなかなか思うようにできなかったのが心残りである。次に皆で会える機会には、マスクをせずとも笑顔で談笑できる状況になっていることを切に願う。

政策立案演習で指導にあたっていただいた上田先生がおっしゃってくださった「君たちはここで学んだことを君たちが活かすだけではなく、派遣元に帰り、同僚や部下に学んだことを伝えていく使命がある」という言葉を深く心に刻んだ。私の公務員としての人生は残り少ないが、学んだ知識をたくさんの同僚や部下に伝え、地方自治に活かせるよう意を持って進んでいきたい。



【自室でのビデオトークの様子】